

きいて・めもして・こたえよう

じしんの かた べ はなし 語り部の話なまえ
名前

きこ聞くと きこめあて聞かされた やました山下さんが たいけん体験した じじつ「事実（できごと）」と、そこから つた伝えたい きょうくん「教訓」を、 わ分けてメモしましょう。

ことば たいけん じじつ きょうくん すうじ
おとさない言葉：体験の事実・教訓・数字

放送が終わったら、聞いて問題に答えましょう。

(1) じしんのゆれは、どれくらい続きましたか。

(2) 山下さんが、いちばんこまったことは何ですか。

(3) 山下さんが、みなさんに伝えたい「教訓」は何ですか。○をつけましょう。

ア じしんは、冬の朝におきる

イ 日ごろのそなえが大切だ

ウ 家具は、かならずたおれる

(4) そなえとして、山下さんが話したことに、あてはまらないものはどれですか。○をつけましょう。

ア 水や食料を用意する

イ 家族とひなん場所を話し合っておく

ウ 毎日、外でねる

(5) 山下さんに、もっと聞いてみたいことを「しつもの文」で一つ書きましょう。

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする (問題を先に見せない)。
- ② この放送文を先生が読む (または用意した音声を流す)。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、大きな、じしんを、けいけんした、山下さんの、お話です。山下さんは、当時の、できごとを、わすれないように、多くの人に、つたえる、「語り部」として、活動しています。じしんの、こわさと、そこから、学んだ、教訓を、話していただきます。

「あれは、十五年前の、冬の、朝でした」と、山下さんは、話し始めます。「とつぜん、地面が、大きく、ゆれ、家具が、たおれ、食器が、われました。ゆれは、一分ほど、続きましたが、とても、長く、感じました。町の、あちこちで、火事も、おきました。」

「いちばん、こまったのは、水と、電気が、止まったことです」と、山下さんは、話します。「じゃ口を、ひねっても、水は、出ません。あかりも、つかず、夜は、まっくら。当たり前の、くらしが、当たり前で、ないことを、思い知らされました。」

「この、けいけんから、みなさんに、つたえたい、教訓が、あります」と、山下さんは、言いました。「それは、日ごろの、そなえが、大切だ、ということです。水や、食料を、用意し、家族と、ひなん場所を、話し合っておく。その、そなえが、いざという、ときに、命を、守ります。」

山下さんの、話は、じしんの、おそろしさと、そなえの、大切さを、教えてくれました。「わすれない」ことが、次の、いのちを、守る。その、思いが、心に、のこりました。

メモのれい

語り部・山下さんの話 (じしんの体験と教訓)

体験 (事実)：十五年前の冬の朝／地面がゆれ家具・食器がたおれる (一分ほど)／水・電気が止まる・火事

こまったこと：水と電気が止まった→当たり前が当たり前でない

教訓：日ごろのそなえが大切 (水・食料を用意／家族とひなん場所を話し合う)→命を守る

こたえと かいせつ

(1) 一分ほど

「ゆれは、一分ほど、続きました」と言っていました。とても長く感じたそうです。

(2) 水と電気が止まったこと

「いちばん、こまったのは、水と、電気が、止まったことです」と言っていました。

(3) イ (日ごろのそなえが大切だ)

アとウは体験した「事実」です。イが山下さんの伝えたい「教訓」です。

(4) ウ (毎日、外でねる)

そなえは「水や食料を用意」「家族とひなん場所を話し合う」でした。外でねることは言っていない。

(5) (例) ひなんするとき、何を持って行きましたか。／いちばんこわかったことは何ですか。

じしんの話に関係する「たずねる文 (～ですか。)」になっていれば正解です。